

平成 2 8 年度

I C T の教育活用を推進する実践研究 指導事例集

北九州市立高見中学校

①校種・学年 教科等・単元名	☐ 小学校 ☒ 中学校	学年 1年	教科等 国語	単元名 感じたことを整理する																
②授業スタイル	☐ 教師説明型 ☒ 児童生徒実践型 ☐ 同時進行型 ☐ 児童生徒発表型 ☐ 児童生徒自主学習型																			
③実践タイトル	タブレットPCを使って、感じたことを整理する																			
④本時のねらい	○絵を見て、具体的な特徴を捉え、感じたことや考えたことを、言葉で表現しようとする態度を育てる。 ○感じたことや考えたことが相手によく伝わるように表現を工夫させる。																			
⑤主に活用した ICT機器・教材・ コンテンツ等のね らい	○生徒自身が興味が引かれる部分を拡大しながら、絵の細部を見ることができるようにする。 ○それぞれのグループの意見を、即時共有できるようにすることで、意見を出しやすくする。 ○意見の中の共通したキーワードを検索することで、絵を鑑賞する際の観点を出しやすくする。																			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">学習の流れ</th> <th>主な学習活動と内容</th> <th>ICT機器・教材・コンテンツ等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導 入</td> <td>5</td> <td> 1. タッチペンの操作練習も兼ね、漢字ドリルパークで漢字の筆順の練習をする。 2. 本日のめあてを確認する </td> <td> タブレットPC 漢字ドリルパーク（ミライシード） </td> </tr> <tr> <td>展 開</td> <td>40</td> <td> 3. 課題である葛飾北斎の画像を全タブレットPCへ配布する。 4. ムーブノートで配布された広場に、自分の感じたことをどんどん投稿していく。 5. 拍手マーク順に並べ替え、考えを確認。 キーワードを検索しどのような言葉がたくさん使われていたのかを確認。 </td> <td> タブレットPC ムーブノート（ミライシード） </td> </tr> <tr> <td>まとめ</td> <td>5</td> <td> 6. 出てきた特徴を整理し、絵の魅力を語るなどの観点を中心にしたいか、自分の考えを出し合う。 7. 次時の確認をする。 </td> <td> タブレットPC </td> </tr> </tbody> </table>				学習の流れ		主な学習活動と内容	ICT機器・教材・コンテンツ等	導 入	5	1. タッチペンの操作練習も兼ね、漢字ドリルパークで漢字の筆順の練習をする。 2. 本日のめあてを確認する	タブレットPC 漢字ドリルパーク（ミライシード）	展 開	40	3. 課題である葛飾北斎の画像を全タブレットPCへ配布する。 4. ムーブノートで配布された広場に、自分の感じたことをどんどん投稿していく。 5. 拍手マーク順に並べ替え、考えを確認。 キーワードを検索しどのような言葉がたくさん使われていたのかを確認。	タブレットPC ムーブノート（ミライシード）	まとめ	5	6. 出てきた特徴を整理し、絵の魅力を語るなどの観点を中心にしたいか、自分の考えを出し合う。 7. 次時の確認をする。	タブレットPC
学習の流れ		主な学習活動と内容	ICT機器・教材・コンテンツ等																	
導 入	5	1. タッチペンの操作練習も兼ね、漢字ドリルパークで漢字の筆順の練習をする。 2. 本日のめあてを確認する	タブレットPC 漢字ドリルパーク（ミライシード）																	
展 開	40	3. 課題である葛飾北斎の画像を全タブレットPCへ配布する。 4. ムーブノートで配布された広場に、自分の感じたことをどんどん投稿していく。 5. 拍手マーク順に並べ替え、考えを確認。 キーワードを検索しどのような言葉がたくさん使われていたのかを確認。	タブレットPC ムーブノート（ミライシード）																	
まとめ	5	6. 出てきた特徴を整理し、絵の魅力を語るなどの観点を中心にしたいか、自分の考えを出し合う。 7. 次時の確認をする。	タブレットPC																	
⑦活動の様子 (画像添付)	漢字の練習。筆順確認など タッチペンで自分の考えを入力し、広場へ投稿。広場には、クラスのみんなの考えが集まってきている。 キーワード検索。注目したいワードには色をつけられる。   																			
⑧児童生徒の反応	○リアルタイムで共有している広場にほかの生徒の意見がどんどん挙がっているのを確認できるので、意見を出しにくいと感じている生徒もそれらを参考にして次第に自分の考えを積極的に出すことができるようになっていった。 ○同じキーワードに色がついて、自分と同じ意見の人がいることがわかり、同じ意見でも自分の言葉で表現しようと意欲的に取り組んでいた。																			
⑨実践の手応え	○自分の意見を付箋で書いた場合は、グループ内では目で見えて意見を共有できるが、他の班の友達の意見はまとめの際にも詳しく見ることはできない。タブレットPCを使うことによって、リアルタイムで多くの友達の意見を共有でき、生徒は、自信を持って学習することができた。																			

①校種・学年 教科等・単元名	☐ 小学校 ☒ 中学校		学年 1年	教科等 社会	単元名 世界の諸地域（北アメリカ州）
②授業スタイル	☐ 教師説明型 ☐ 児童生徒実践型 ☒ 同時進行型 ☐ 児童生徒発表型 ☐ 児童生徒自主学習型				
③実践タイトル	アメリカ合衆国の人々の生活や文化が、世界にどのような影響を与えているのかまとめよう。				
④本時のねらい	北アメリカ州のこれまでの学習を振り返り、アメリカ合衆国の生活と文化について資料を読み取る活動を通して、世界に大きな影響を与えていることをまとめることができるようにする。				
⑤主に活用した I C T機器・教材・ コンテンツ等のね らい	タブレットP Cはグループで1台（資料の読み取りと発表用）として活用した。各班ごとに配布された資料（写真や絵）を読み取る活動を行い、読み取った内容を記述した学習プリントを撮影し、根拠を示しながら発表する表現活動を充実させた。				
⑥本時の展開 （主な学習活動）	学習の流れ		主な学習活動と内容		I C T機器・教材・コンテンツ等
	導 入	0 10	1. 日常生活の中でアメリカ合衆国発祥の製品が多く存在することに気づき、日本も生活と文化に大きな影響を受けていることを確認する。 2. めあてを確認する。		教師用タブレットP C（1台） デジタルテレビ
	展 開	25	3. タブレットP Cを活用し、アメリカ合衆国の生活や文化についてグループごとに配布された資料を読み取る。 4. アメリカ合衆国の生活や文化について気付いたことを学習プリントに記述し、タブレットP Cで撮影し、教師用タブレットP Cに提出する。 5. アメリカ合衆国の生活や文化が世界中に広がっていることについてまとめた内容を発表する。		教師用タブレットP C（1台） 生徒用タブレットP C（6台） デジタルテレビ 学習プリント
	まとめ	40 45	6. 各班の発表を聞いて、気付いたことを基に本時の学習を振り返り、まとめを書く。 7. まとめを発表する。		教師用タブレットP C（1台） デジタルテレビ 学習プリント
⑦活動の様子 （画像添付）	○タブレットP Cを活用したグループ活動を通して、生徒同士が意見を交換しながら気付いたことをまとめることができた。				
					
⑧児童生徒の反応	○手元に資料があることで、活発な話し合い活動を行うことができた。 ○発表の際、特に注意して説明したい内容を書き込みながら説明することができ、表現力の育成につながったと考える。 ○各班の内容を掲示することで、視覚的に情報を共有することができた。				
⑨実践の手応え	○タブレットP Cを活用して資料を読み取る活動を行ったことで、資料に書き込みながら、気付いたことを整理することができた。 ○発表の際に、視覚的に共有することができたため、全体理解を深めることができた。 ●今後はデジタルテレビに投影するだけでなく、各班のタブレットP Cに班ごとの意見を投影させ、意見を深める実践を取り入れていきたい。				

①校種・学年 教科等・単元名	☐小学校 ☒中学校	学年 3 年	教科等 数学	単元名 図形と相似															
②授業スタイル	☐教師説明型 ☐児童生徒実践型 ☒同時進行型 ☐児童生徒発表型 ☐児童生徒自主学習型																		
③実践タイトル	相似比と面積比の関係を利用して相似な図形の面積を求めよう。																		
④本時のねらい	相似比と面積比の関係を利用して相似な図形の面積を求めることをねらいとする。その手立てとして、タブレットPCにある学習ドリルソフトを利用し、相似比と面積比を求める。次に、相似比と面積比の関係から比例式を作り、相似な図形の面積を求める。																		
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	タブレットPCは一人1台使用した。教師用タブレットPCに全生徒の画面を表示することで、生徒の学習状況を把握しやすくし、個別指導の必要な生徒への対応を迅速に行えるようにする。また、生徒個人のタブレットPC画面を全体に提示することにより、生徒個々の学習過程や課題解決方法を全体に分かりやすく示していく。																		
⑥本時の展開 (主な学習活動)	<table><tr><th colspan="2">学習の流れ</th><th>主な学習活動と内容</th><th>ICT機器・教材・コンテンツ等</th></tr><tr><td rowspan="2">導 入</td><td>0 5</td><td>1. 相似な図形について、相似比と面積比の関係を確認する。 2. 本時のめあてを確認する。</td><td>学習プリント パネル マグネット</td></tr><tr><td>15 25 35 45</td><td>3. 相似比と面積比を求める。 4. 課題Ⅰ（相似な図形の計量1・2） ①個人で考える。 ○デジタルテレビに映し出された一部の問題を、全体で振り返る。 5. 相似比と面積比の関係を利用して、相似な図形の周の長さや面積を求める。 6. 課題Ⅱ（相似な図形の計量3） ①個人で考える。 ○デジタルテレビに映し出された一部の問題を、全体で振り返る。 7. 課題Ⅲ（相似な図形の計量4） ①個人で考える。 ②ペアで考える。 ○友だちの意見や課題解決方法を参考に、課題を解決する。</td><td>デジタルテレビ タブレットPC 学習プリント パネル マグネット</td></tr><tr><td>まとめ</td><td>45 50</td><td>8. 本時の学習を振り返る。</td><td>学習プリント パネル</td></tr></table>				学習の流れ		主な学習活動と内容	ICT機器・教材・コンテンツ等	導 入	0 5	1. 相似な図形について、相似比と面積比の関係を確認する。 2. 本時のめあてを確認する。	学習プリント パネル マグネット	15 25 35 45	3. 相似比と面積比を求める。 4. 課題Ⅰ（相似な図形の計量1・2） ①個人で考える。 ○デジタルテレビに映し出された一部の問題を、全体で振り返る。 5. 相似比と面積比の関係を利用して、相似な図形の周の長さや面積を求める。 6. 課題Ⅱ（相似な図形の計量3） ①個人で考える。 ○デジタルテレビに映し出された一部の問題を、全体で振り返る。 7. 課題Ⅲ（相似な図形の計量4） ①個人で考える。 ②ペアで考える。 ○友だちの意見や課題解決方法を参考に、課題を解決する。	デジタルテレビ タブレットPC 学習プリント パネル マグネット	まとめ	45 50	8. 本時の学習を振り返る。	学習プリント パネル
学習の流れ		主な学習活動と内容	ICT機器・教材・コンテンツ等																
導 入	0 5	1. 相似な図形について、相似比と面積比の関係を確認する。 2. 本時のめあてを確認する。	学習プリント パネル マグネット																
	15 25 35 45	3. 相似比と面積比を求める。 4. 課題Ⅰ（相似な図形の計量1・2） ①個人で考える。 ○デジタルテレビに映し出された一部の問題を、全体で振り返る。 5. 相似比と面積比の関係を利用して、相似な図形の周の長さや面積を求める。 6. 課題Ⅱ（相似な図形の計量3） ①個人で考える。 ○デジタルテレビに映し出された一部の問題を、全体で振り返る。 7. 課題Ⅲ（相似な図形の計量4） ①個人で考える。 ②ペアで考える。 ○友だちの意見や課題解決方法を参考に、課題を解決する。	デジタルテレビ タブレットPC 学習プリント パネル マグネット																
まとめ	45 50	8. 本時の学習を振り返る。	学習プリント パネル																
⑦活動の様子 (画像添付)	全生徒のタブレットPCの画面を、教師用タブレットPCの画面に同時に映し出すことにより、生徒の学習状況を把握することができ、支援が必要な生徒にその場で個別指導することができた。 																		
⑧児童生徒の反応	○生徒一人一人がタブレットPCにある学習ドリルソフトを利用して、自分のペースで問題を解いていくことができ、意欲的に学習に取り組むことができた。																		
⑨実践の手応え	○今回はタブレットPCにある学習ドリルソフトを活用した個人学習・ペア学習を中心に行った。 ○生徒個人の画面を全生徒のタブレットPCや提示用デジタルTVの画面に映し出すことにより、生徒個々の考えや課題解決方法を全体で共有することができた。																		

①校種・学年 教科等・単元名	□ 小学校	学年	教科等	単元名
	■ 中学校	1 年	理科	変動する大地
②授業スタイル	□教師説明型 □児童生徒実践型 ■同時進行型 □児童生徒発表型 □児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	地層はどのようにつくられるのだろうか。地層を観察すると、何がわかるのだろうか。			
④本時のねらい	・写真や動画を見ながら、小学校で学習した流水のはたらきについて想起させ、地層がどのようにしてできるのかを考えさせる。 ・断層やしゅう曲のでき方を知る。			
⑤主に活用した I C T機器・教材・コンテンツ等のねらい	・教師用ノートパソコンの動画をデジタルテレビで映し出して説明に用い、理解を深めることをねらいとした。 ・タブレット P C は、グループで 1 台用意した。生徒が自由に操作しながら、断層やしゅう曲のでき方をシミュレーション画像を見ながら学べることをねらいとして活用した。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ		主な学習活動と内容	I C T機器・教材・コンテンツ等
	導 入	0 10	1. グランドキャニオンやエベレストの写真を見て地層のでき方を考える。 2. めあてを確認する。	教師用タブレット P C (1 台) デジタルテレビ
		展 開	25	3. 地層はどのようにしてできるのか、動画を視聴する。 4. 教師の説明を聞き、ノートをまとめる。 5. 断層やしゅう曲のでき方や種類について、タブレット P C を操作し、シミュレーション画像を見ることで、理解を深める。
	まとめ		40 45	6. 教師の説明を聞き、本時の学習を振り返り、まとめを聞く。 7. ノートにまとめをする。
⑦活動の様子 (画像添付)	○タブレット P C を活用したグループ活動を通して、生徒同士が意見を交換しながら理解を深めることができた。 			
⑧児童生徒の反応	○リアルな動画を視聴することで、視覚的な興味も湧き、スムーズに学習に取り組むことができた。 ○タブレット P C を自由に操作し、生徒同士が意見を交換しながらシミュレーションを見ることで、興味を持って、学習に取り組むことができた。			
⑨実践の手応え	○写真だけでなく動画を視聴することで、生徒の学習課題に対する興味・関心が高まったように感じた。 ○タブレット P C を自由に操作し、意見交換をしながらシミュレーション見ることで、興味・関心が高まるとともに、理解が深まったように感じた。			

①校種・学年 教科等・単元名	☐ 小学校 ☒ 中学校		学年 1 年	教科等 音楽	単元名 音符やリズムを理解して、作曲してみよう。
②授業スタイル	☐ 教師説明型 ☒ 児童生徒実践型 ☐ 同時進行型 ☐ 児童生徒発表型 ☐ 児童生徒自主学習型				
③実践タイトル	タブレットPCを活用して、作曲に挑戦してみよう				
④本時のねらい	音符、休符、リズムなどをしっかり理解し、旋律やリズムを組み合わせることによって、自分のイメージにあった曲を創作できるようにする。				
⑤主に活用した ICT機器・教材・ コンテンツ等のね らい	タブレットPCは一人一台として活用した。最初に音符・休符・コードなどの説明をしっかりと理解させてから、自分の曲に対するイメージを考えさせる。それをもとに、4分の4拍子、8小節の曲を作曲してゆく。生徒同士班で発表しあい、感想を交換する。班ごとに全体で発表しあうことで、いろいろな工夫や発想を知ることができる。				
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ		主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
	導 入	10	1. 音符。休符。コードの説明をして、楽譜を作る基礎を理解させる。		ホワイトボード マグネットシート
	展 開	20 5 10	2. タブレット端末を使用して、4分の4拍子、8小節の曲を作曲してみる。 3. 班ごとに発表しあい、お互いに聴きあって表現を工夫する。 4. 作曲した曲のイメージを考え、題名をつける。 5. 班ごとに発表する。		タブレットPC コード表 学習プリント（五線譜）
	まとめ	5	6. それぞれの発表についてきいたことをもとに、意見や感想をまとめ、今後自分の作曲をするうえで参考にする。		学習プリント
⑦活動の様子 (画像添付)	タブレットPCの使い方を教えてもらい、音符や休符を選択して自分たちで操作をしてみた。8小節できたら各小節に合うコードを自動選択で選び、伴奏をつけたり、曲調（ジャズ風、オルゴール風、ボサノバ風など）を適用してみたりして、自分なりの曲を作った。 				
⑧児童生徒の反応	○音符や休符が一小節の中にどのように入るか実際に入れてみて理解を深めることができた。また、何より自分で作った曲が演奏されて流れたときの喜びは大きかったようである。自分なりに工夫して変えてみたり、他の人の作品を聴いて参考にしたりして、作曲についてより深めていくことができた。 ○今まで音符がなかなか理解できず、曲を作ることへの抵抗があった生徒もタブレットPCを使うことで、「自分にもできた。」という自信にもなり、何より楽しんで取り組めたことが一番良かった点だと思う。				
⑨実践の手応え	○生徒はタブレットの操作に慣れるのに多少時間がかかったが、曲ができたときは「すごい！」と大喜びでよりいいものを作ろうとしようとする姿勢がみられたので、時間をとって、よりいいものを作るように指導していくべきだと思った。そのためには、曲の形式や、どんな音を使うと終わった感じになるかなど具体的に課題意識をもたせてより良い曲作りに挑戦させていこうと思った。 ●班やクラスでできたものを発表しあい、いろいろな作品に触れることによって、良いと思うところを取り入れていけるように実践させたい。				

①校種・学年 教科等・単元名	☐ 小学校 ☒ 中学校	学年 1 年	教科等 美術	単元名 表現：イメージ Book で気分をチェンジ！～技法から表現へ～															
②授業スタイル	☐ 教師説明型 ☐ 児童生徒実践型 ☒ 同時進行型 ☐ 児童生徒発表型 ☐ 児童生徒自主学習型																		
③実践タイトル	タブレットを使って作品をじっくり鑑賞しよう。																		
④本時のねらい	自分の作品を様々な方向や方法で見ることで新たな発見や見方ができる。また他者から自分の作品を評価・鑑賞されるということは新たな価値観との出会いにつながる。タブレットを使うことで色々な作品を同時に鑑賞できるので、比較・対比しながら自分のお気に入りを見つけるようにしたい。																		
⑤主に活用した I C T機器・教材・ コンテンツ等のね らい	作品を並べて同時に多数の作品を鑑賞できることが最大の利点である。また、感想や拍手などをリアルタイムでお互いに伝えあうことができるのも ICT 機器ならではの機能なので、お互いの考えを共有しやすくなるようにしたい。																		
⑥本時の展開 (主な学習活動)	<table><tr><th colspan="2">学習の流れ</th><th>主な学習活動と内容</th><th>I C T機器・教材・コンテンツ等</th></tr><tr><td rowspan="2">導 入</td><td>10</td><td>1. 本時の流れを確認する。 2. タブレットの使い方および、撮影の仕方やコメントの書き方などを学び、自分の特にお気に入りの作品を1点撮影する。</td><td>自分の作品 タブレットP C（ミライシード）</td></tr><tr><td>30</td><td>3. 自分の作品を「みんなの広場」にアップし、様々な作品について拍手をしたり、感想を書いたりする。また、自分の作品に書かれたコメントから「メモしておきたい」コメントを見つけ、プリントに書きこむ。</td><td>タブレットP C 学習プリント</td></tr><tr><td>まとめ</td><td>10</td><td>4. 自分が気に入った作品3作品を選び、選んだ理由などを学習プリントに記入する。</td><td>タブレットP C 学習プリント</td></tr></table>				学習の流れ		主な学習活動と内容	I C T機器・教材・コンテンツ等	導 入	10	1. 本時の流れを確認する。 2. タブレットの使い方および、撮影の仕方やコメントの書き方などを学び、自分の特にお気に入りの作品を1点撮影する。	自分の作品 タブレットP C（ミライシード）	30	3. 自分の作品を「みんなの広場」にアップし、様々な作品について拍手をしたり、感想を書いたりする。また、自分の作品に書かれたコメントから「メモしておきたい」コメントを見つけ、プリントに書きこむ。	タブレットP C 学習プリント	まとめ	10	4. 自分が気に入った作品3作品を選び、選んだ理由などを学習プリントに記入する。	タブレットP C 学習プリント
学習の流れ		主な学習活動と内容	I C T機器・教材・コンテンツ等																
導 入	10	1. 本時の流れを確認する。 2. タブレットの使い方および、撮影の仕方やコメントの書き方などを学び、自分の特にお気に入りの作品を1点撮影する。	自分の作品 タブレットP C（ミライシード）																
	30	3. 自分の作品を「みんなの広場」にアップし、様々な作品について拍手をしたり、感想を書いたりする。また、自分の作品に書かれたコメントから「メモしておきたい」コメントを見つけ、プリントに書きこむ。	タブレットP C 学習プリント																
まとめ	10	4. 自分が気に入った作品3作品を選び、選んだ理由などを学習プリントに記入する。	タブレットP C 学習プリント																
⑦活動の様子 (画像添付)	作品の鑑賞を意欲的に行っていた。作品についてしっかりと考えて感想を書くことができていた。拍手やコメントを入力する時に、相手に宣言して行ってしまう生徒がいたので、機能を十分に生かせるような説明をしていきたい。 																		
⑧児童生徒の反応	○タブレットP Cの操作に不慣れな生徒も多く、初めは戸惑うことも多かった様子だが、慣れてくると楽しそうにタブレットP Cを使用して鑑賞の授業を行い、クラス全員の作品を同時に見ることや自分のお気に入りを決めることに興味をもって取り組むことができていた。拍手やコメントなどを積極的に残し、作品の印象や自分の感想などを他者に伝えようとしている様子が見受けられた。 ●ミライシードの使い方に不慣れな部分が多く、接続が不安定になることも多かったので活動時間が十分に取れないときがあった。																		
⑨実践の手応え	○普段は、友達の作品を鑑賞することはできても、全員の作品を並べて、同時に見ることはなかなかできなかったが、タブレットP Cを使うことで可能になり、鑑賞の幅が広がったように思う。鑑賞の仕方やアプリの活用を考えることでさらに有意義な鑑賞の授業でできると考える。 ●タブレットP Cを用いての作品制作についても検討していきたい。																		

①校種・学年 教科等・単元名	☐ 小学校 ☒ 中学校	学年 1 年	教科等 保健体育	単元名 サッカー																	
②授業スタイル	☐ 教師説明型 ☒ 児童生徒実践型 ☐ 同時進行型 ☐ 児童生徒発表型 ☐ 児童生徒自主学習型																				
③実践タイトル	ボールを使い、足をたくさん動かそう																				
④本時のねらい	サッカーの単元の 1 時間目の授業で、サッカーの動きに必要な足の色々な部位を使ってボールに触る、ボールを止めるなどの基本技能を理解し、身に着ける。																				
⑤主に活用した I C T機器・教材・ コンテンツ等のね らい	動画でお手本の動画をスロー再生することで、わかりやすく解説することができる。また、自分の動きを動画で撮影し振り返ることで、自分の動きを客観的に確認することができる。																				
⑥本時の展開 (主な学習活動)	<table><tr><th colspan="2">学習の流れ</th><th>主な学習活動と内容</th><th>I C T機器・教材・コンテンツ等</th></tr><tr><td rowspan="2">導 入</td><td>0</td><td rowspan="2">1. ランニング、準備体操 2. サッカーの基本のルールの確認。 3. めあての確認</td><td rowspan="4">タブレットP C デジタルテレビ アクセスポイント お手本動画</td></tr><tr><td>10</td></tr><tr><td rowspan="2">展 開</td><td>10</td><td rowspan="2">4. 基本の動きをお手本の動画を見て確認し、その後、実際に練習する。 5. ペア毎にそれぞれ動画を確認し、お手本動画と比較、再生する。</td></tr><tr><td>45</td></tr><tr><td rowspan="2">まとめ</td><td>45</td><td rowspan="2">6. 今日のまとめと次回のめあての確認</td></tr><tr><td>50</td></tr></table>				学習の流れ		主な学習活動と内容	I C T機器・教材・コンテンツ等	導 入	0	1. ランニング、準備体操 2. サッカーの基本のルールの確認。 3. めあての確認	タブレットP C デジタルテレビ アクセスポイント お手本動画	10	展 開	10	4. 基本の動きをお手本の動画を見て確認し、その後、実際に練習する。 5. ペア毎にそれぞれ動画を確認し、お手本動画と比較、再生する。	45	まとめ	45	6. 今日のまとめと次回のめあての確認	50
学習の流れ		主な学習活動と内容	I C T機器・教材・コンテンツ等																		
導 入	0	1. ランニング、準備体操 2. サッカーの基本のルールの確認。 3. めあての確認	タブレットP C デジタルテレビ アクセスポイント お手本動画																		
	10																				
展 開	10	4. 基本の動きをお手本の動画を見て確認し、その後、実際に練習する。 5. ペア毎にそれぞれ動画を確認し、お手本動画と比較、再生する。																			
	45																				
まとめ	45	6. 今日のまとめと次回のめあての確認																			
	50																				
⑦活動の様子 (画像添付)	タブレットP Cを使用し、自分で振り返りを行ったり、お互いにアドバイスしあうことができた。 																				
⑧児童生徒の反応	○お手本の動画を実際に見ることによって、目指すべき動きや注意するポイントなどがわかりやすく伝わった。 ○自分の動きを動画で撮影することで、実際に自分がどんなふうに動いているのかが客観的に見ることができた。 ○自分の動画とお手本の動画を比較したり、重ね合わせたりすることで、自分の動きの改善点が見えた。																				
⑨実践の手応え	○お手本動画の再生速度を変えたり、一時停止してポイントを書き込みながら説明したりすることで、見るべきポイントが焦点化され、生徒の理解が深まった。 ○生徒自身の動画を撮影したことによって、授業が終わった後も生徒の動きを見ることができ、評価の際に参考資料にできると感じた。 ●タブレットを使うことによって、実際の活動時間が短くなった点やグラウンドでは見づらい点、ネットワークにつながらない点などの課題も見えた。																				

①校種・学年 教科等・単元名	□小学校 ■中学校	学年	教科等	単元名
		3年	技術・家庭	情報に関する技術（プログラムによる計測・制御）
②授業スタイル	□教師説明型 ■児童生徒実践型 □同時進行型 □児童生徒発表型 □児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	映像の記録から、プログラムを工夫・改善しよう			
④本時のねらい	計測・制御のためのプログラムの作成を通じて、コンピュータを用いた計測・制御の基本的な仕組みを知り、簡単なプログラムの作成ができるようにするとともに、情報処理の手順を工夫する能力を育成する。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	タブレットPCはグループで1台（プログラムの編集用と動画撮影用）として活用した。最初に作成したプログラムを実行する様子と修正や工夫を加えたプログラムを実行するロボットをタブレットPCのカメラ機能で動画撮影し、同時に再生させることで、ロボットの動きを振り返りながらプログラムの修正点を話し合うことで、正確な情報をもとに修正点を検討でき、生徒同士のコミュニケーションも充実した。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ		主な学習活動と内容	ICT機器・教材・コンテンツ等
	導 入	0 10	1. 前時に作成したプログラムを使ってロボットを動かし、その様子をタブレットPCで録画する。	タブレットPC デジタルテレビ
		15 35	2. 録画した映像を見ながら、ロボットに目的の動きをさせるためには、どのようなプログラムを作成するとよいか、グループ内で話し合う。 3. グループで話し合った工夫点を使って、目的の動きになるような、タッチセンサーを使ったプログラムを作成し、再度タブレットPCで撮影する。 4. 2つの動画を同時再生し、課題点が改善できたかどうか、工夫した箇所がロボットの動きに反映されているかを確認する。	タブレットPC デジタルテレビ ホワイトボード 学習プリント
	ま と め	40 45	5. 作成したプログラムを発表する。 6. 本時の学習を振り返り、成果や課題をワークシートにまとめる。	タブレットPC デジタルテレビ ホワイトボード 学習プリント
⑦活動の様子 (画像添付)	修正前のプログラムと修正後のプログラムを実行した際の動きをタブレットPCのカメラ機能で撮影させた。2つの映像を同時に再生しながら見ることで、映像記録からグループの課題が改善できたかどうか確認したり、工夫した箇所がロボットの動作に反映できたかどうかを確認させたりすることで、生徒同士の学び合いが促進された。  			
⑧児童生徒の反応	○ロボットの動作を動画で撮影し、確かな情報（映像記録）に基いた活発な話し合い活動が行われた。 ○話し合いの内容をホワイトボードに記入しながら、プログラムをよりよく作り変えていく活動を通して、グループのプログラムの課題が明らかになり、課題改善に至るまでの思考の流れをグループ全員が視覚的に共有することができた。			
⑨実践の手応え	○今回はホワイトボードを活用した話し合い活動を行った。 ●今後はグループの話し合いの記録にタブレットPCを活用し、他のグループとの交流活動を通じた学び合う場面を設けた実践を行っていきたい。			

①校種・学年 教科等・単元名	☐ 小学校 ☒ 中学校	学年 1 年	教科等 英語	単元名 Daily Scene 3 グリーティングカード
②授業スタイル	☐ 教師説明型 ☒ 児童生徒実践型 ☐ 同時進行型 ☐ 児童生徒発表型 ☐ 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	目的に合わせて、いろいろな招待状をグループでつくろう。			
④本時のねらい	教科書ではグリーティングカードを取り扱っているが、発展学習として、招待状を作成することをねらいとする。その中で、相手意識をもち、何を記述すればよいかを具体的に示し、さらに創意工夫することを目指す。最後に、学級の中で、どの招待状に一番出席したいかを投票させるようにした。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	グループ（3・4人）で1台のタブレットPCを使用し、招待状を作成する授業を組み立てた。生徒同士がコミュニケーションを図りながら話し合う中で、それぞれの招待状に様々な工夫が生まれることをねらいとした。修正することが容易で、飾りつけも楽しくできた。また、英語に苦手意識がある生徒にとってのアクティブ・ラーニングは効果的であったと考える。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ		主な学習活動と内容	ICT機器・教材・コンテンツ等
	導 入	05	1. 前時にグループできめた題材を確かめさせ、本時のめあてを確認する。	学習プリント
	展 開	30 45	2. グループで話し合いながら、招待状を工夫して作成する。 3. 各グループの代表者が作成した招待状のプレゼンテーションを行い、一番出席してみたい招待状を選ぶ。	タブレットPC デジタルテレビ 学習プリント 和英辞書・教科書・ワーク
	まとめ	50	4. 招待状は、読み手にわかりやすいものを作成しなければならないことに気付かせ、実際の場面で活用するよう促す。	デジタルテレビ
⑦活動の様子 (画像添付)	修正が容易なタブレットPCの特徴を生かし、スペルの間違いを気にせず、生徒達は思うがままに招待状を仕上げていた。また、キーボードを使用した文字を使用するか、手書き入力で作成するかなど、それぞれのグループで特徴が見られた。加えて、飾りつけをすることにより、「行ってみたい!」という招待状が完成した。  			
⑧児童生徒の反応	○グループ学習という形態を導入したことで、英語に苦手意識をもっている生徒も積極的に話し合い活動に参加することができた。 ○各グループが作成した招待状を学級全体で共有することにより、様々な招待状を通して、たくさんの英語表現を知る機会になった。また、プレゼンテーションを行うことにより、考えを相手に伝えるためには、こういった言葉を用いた方がよいかを考えることもできた。			
⑨実践の手応え	○今回は、グループでタブレットPCを活用した話し合い活動を行った。タブレットPCの特徴を生かし、次回はペア活動→個別学習へと、一人一人がタブレットPCをコミュニケーションのツールとして活用し、さらに、英語学習が楽しいと思えるような授業を展開していきたい。			